

伊達後長辨書

明治四十三年二月四日接受

乙秘第五號 十二月廿九日

李人植ノ行動

秘受第

第一課

號

廿八日午前二時宿所ヲ出テ總町区内幸町胃腸病院

ニ代議者松本君ヲ訪ヒ會談約三時間ノ後退リ新

新聞社ニ歸リ四時四十分既宿六時外出神田區猿樂町

三丁目一番地居住韓人金基璋ヲ訪問セシム

爲メ既宿ス

以上

第3門

伊達後長辨書

明治四十三年二月四日接受

警政務局

乙秘第五號 一月三日

李人植ノ行動

秘受第

七

號

一日午前九時大垣大吏ヨリ瑞吉到來十一時分送書ヨリ奈ル

ト同時ニ統監府書記官小松緑、園分象次郎、瑞吉ヲ奈

送ス午前一時金基璋方ニ歸リ五時十五分既宿七時駿河台

八代洋服店ニ赴キ直ニ既宿園中房ヨリ(原通)來訪早退爲

メ退出八時其妻某來談暫時シテ退出

二日午前十一時金基璋午前一時分才位ノ奉拜婦人來訪

英ニ七時分退出

以上

第 3 門
機密 受第 辨

第 3 門

1

明治四十三年一月四日接受

壽政務局

乙秘第2900號

十二月廿一日

秘受第

八號

本千人植ノ行動

曹付了

第一課

第3門

廿九日午前九時五分旅館ヲ出テ徒歩ニシテ神戶ニ至リ
 樂町三丁目一番地韓國人金某在該方ノ壘ヲ午後零
 時三十分迄出帰館同ニ時左十分再ビ外出電車ニ乗
 町區三番町十番地望遠館事伊東勳兵衛方出前
 韓國人柳流根ヲ訪ヒ同四時退出徒歩ニシテ同四
 時四十分歸館セリ

三十日終日外出セズ午前十時十分ニ大田支夫止

午ニ大崎某來訪午後二時四十分一同退出同四時三
 十分田中某來訪同九時退出セリ

(以上)

伊ノ我ニ送ル事ナシ

144

附格 三月廿六日 接受 警務局

乙 秘第 七 號 一月 四 日

第一課 秘受第 五五 號

李 人 植 の 行 動

一 月 三 日

一 午 前 在 宿 午 后 一 時 廿 分 外 出 麹 町 區 内 幸 町 胃 腸 病 院
へ 至 り 年 始 贈 物 を 為 し 一 時 間 餘 を 以 て 退 出 全 二 時 五 十 分
帰 宿 ス

一 午 后 三 時 頃 李 章 久 下 袴 氏 韓 國 人 來 訪 談 話 し 全 四 時
退 出 全 時 尹 某 ナル 三 十 歳 位 韓 國 人 來 訪 直 退 出 ス

第 三 門

一 午 后 六 時 韓 國 通 信 算 田 甲 房 吉 ナル 韓 國 人 姜 某 ナル
三 十 四 五 歳 男 來 訪 し 田 中 ハ 全 六 時 半 頃 退 出 姜 ハ
李 ト 團 圓 暮 ヲ 為 し 午 后 十 時 退 出 本 夕 來 客 ナ 去 リ ヤ
直 就 寢 セ リ

以 上

上

明治四十三年二月六日接受 青政務局

乙秘第一二號 一月五日

李人植ノ行動

四日前十一時外出電車、来リ本郷退駒之浅嘉町六十三番地阿部佐太郎方ヲ訪問シ、ルモ不在ニシ、直チニ退出電車ニ乘リ、飯宿セリ

午後三時半、歳三十五六、洋服ヲ着ケ、紳士風ノ男、来訪談話、上同五時退去ス

午後八時前記浅嘉町、阿部佐太郎来訪甚シ、且ツ談話、上同十一時三十分退去ス、ト全時、李ノ

第3門

履ニ就テリ

以上

伊予越後長門各府

秘受第

第一課

五八

伊予 課長

明治三十四年一月六日

善政務局

秘第一四號

一月六日

秘受第

七七

號

第一課

等

信

韓國合併問題に関する件

憲政本党某代議士、韓國問題に関する左、如左語

大正

日韓合併問題、聞シテ未タ党トシテ一懷議ニハ登
ラカルモ大石大養其他二三黨員間ニハ此際韓國ヲ
我國ニ合併シ全國ノ皇族ヲ我國ノ貴族ニ列シテ
之ヲ内地ニ羅致シ茲暫ク軍政的機關ヲ敷キ以テ
之ヲ統治スルニ若カス依テ今期議會ニ於テ政友

第3門

會ニ交渉シ其同意ヲ得テ秘密會議ヲ開キ院議
ヲ以テ政府ニ之ヲ新行ヲ忠告シ又場合ニ依リ政府
カ強ヒテ及對セハレハ秘密上奏ヲ為スモ可キナリト
々語シ合ヒ居レリ我党ニ於テハ一入トシテ此説ニ及
對スル者ナカルハシト信スルカ故ニ自然事實トナリ
テ現ハルニ至ルナラシレ而シテ昨今新聞紙上ニ我
党ハ韓國問題調査ヲ為ス内暢ニ渡韓セシメ
タルヤニ記載シアルモ右ノ事實ニテ大内ニ各地
事業ヲ經營シ居リ屢々各地ニ往來シ居ルニシテ

伊藤公使(孫)及(孫)等

伊藤

今回モ其用件ニテ渡韓スルニ付今人ノ望ミ依
リ派遣ノ名義ヲ付シ遣リタルニ過キス決シテ今人
調査ノ結果ヲ待テ之ヲ云為セントスルモノモアラス
又政府ノ内情ニ通スル者ノ語ル所ニ依レハ桂首相
寺内陸相、曾根統監ノ間ニ來ル三月ヲ期シ合邦
ヲ断行セント、意思既ニ定リ居リテ之カ為來ルニ
月ニ於ケル同地駐屯兵交代ノ際ニハ一旅團位ノ
軍隊ヲ増遣スル計畫ナリトノコトナレハ右ノ言
議ハ蓋シ政府ニ於テモ喜マ所ナレト思ハル云々

明治四十三年一月六日接受 主官 政務局

朝鮮

折込の付書二紙
明治四十三年一月一日

秘受策

八四

附屬書類添付

第二號

在埃共國

臨時代理大使 奥田 修三

外務大臣 伯爵 小幡 武夫 殿

韓國合衆、凡況之云々

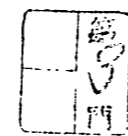
フラス、ワレモ社況事飲

折込の付

埃共國、其巴爾幹政系上露國
ノ近在たさし力ヲ依持セシトシ、
露國ノ關係ヲ永ク不安ナラシメ、

在埃國日本大使館

極力其力ヲ弱クシ、
トノ希望ヲ有スルニ付、在埃地方、
ケル事、國シテ種々感奮的ナリ、
凡況ヲ依布シ、度糸、用テ露國
國ニ絶ハス不、念、懐カレ、
結フ、限リ、永ク、事、拘、
モノ、下、腐人、心、件、
テ、附、務、案、中、一、部、并、本、
日、附、付、一、部、ヲ、以、テ、其、曲、
主、見、込、中、右、之、知、者、地、
境、於、テ、一、部、ヲ、以、テ、其、
合、備、ノ、意、旨、アリ、ト、露、
並、且、ノ、目的、ヲ、以、テ、其、



借りたり、仙林也、信り、揚ヶ、ア、レ、テ、コ、ラ、イ、五、
カ、レ、シ、モ、社、ヨ、ウ、ク、ク、ア、イ、ト、モ、ト、モ、ア、ル、何、
同、合、ニ、ナ、リ、モ、ク、分、キ、日、日、同、院、ノ、無、根、
大、人、キ、チ、ク、去、ケ、且、フ、同、院、相、方、也、
ニ、於、テ、本、邦、ノ、措、置、モ、ウ、ク、政、策、モ、同、シ、
種、々、感、動、的、の、通、信、ノ、屢、次、世、上、
ニ、伝、布、セ、シ、テ、其、ハ、氣、也、無、根、
捏、造、説、見、ニ、過、キ、ス、林、カ、方、針、人、統、括、
一、貫、平、和、的、國、是、ヲ、遂、力、シ、經、済、
的、基、礎、ヲ、敷、元、ノ、外、實、ニ、他、意、十、年、
与、リ、院、中、モ、久、知、同、様、於、テ、ハ、昨、十、
日、傳、信、之、リ、揚、ヶ、而、レ、テ、右、ノ、凡、況、
ニ、據、拠、レ、テ、日、リ、社、況、ト、テ、大、事、
在、填、國、日、本、大、使、館

左、記、ノ、如、キ、語、多、ク、揚、載、シ、以、テ、露、國、
ノ、強、カ、レ、極、キ、方、也、其、錄、甚、シ、
郵、向、セ、シ、ト、力、ヲ、示、シ、テ、意、向、ハ、
也、表、露、也、シ、テ、其、件、ハ、一、言、ヲ、以、
附、一、ノ、一、語、ヲ、以、テ、電、報、ニ、送、キ、
於、テ、其、事、多、ク、限、リ、採、録、シ、テ、提、
テ、露、國、ノ、條、約、ヲ、示、シ、テ、其、方、
制、ニ、テ、ハ、如、キ、如、キ、ヤ、リ、況、ハ、
一、邊、和、ト、シ、テ、其、社、況、ノ、大、事、
譯、述、シ、テ、送、リ、給、フ、事、ハ、極、
其、事、ハ、接、信、ノ、中、ハ、其、事、ハ、
其、事、ハ、

ノイエブライエ、ソレトモ社説大要

(四十二年十一月十日)

日本カ袁カラス、韓國ヲ保合セントスルノ
凡説ハ、目下露國有塔ニ境布セラレ
テ、其ノ報也。由リテ、泰スルニ、露
國政治家カ如何ト不安ノ念ヲ出テ
極東ノ事ヲ觀視セルカラ、俄ハ、
ト同時ト、东亚ノ事ヲハ、ホリ、全クハ、
決セラレ、サレ、吾人ト告知スルコト

ホーツマス条約ハ、極東ノ事ヲ、
決定的ノモノナラ、サレ、可カラ、
露國ニテハ、右条約ヲ、
時ノ休戦条約ト看做シ、極東ノ
露國ノ植勢力ヲ恢復スルニ、
日本ト、
露國ハ、
本ノ納貢國カ、
運命ハ、
ル外、
日本ハ、
ト、
僑民カ、
備州ノ西北方面、
續セ、

在填國日本大使館

韓國ハ、
本ノ納貢國カ、
運命ハ、
ル外、
日本ハ、
ト、
僑民カ、
備州ノ西北方面、
續セ、

論抗争アリ 試みたり 近日清
 合同レテハテ露國ノ方よりトノ企劃
 リトノ方ヨリ況キマア 露國ト
 リテ東亞ノ領土トテ未解決未
 決定ノ事ナリ
 イスワンスキ氏ノ政策ハ極東ノ事業テモ
 最近東ニ於テモ、勢威ノ高キトスル
 ニ在リトモ 其政策ハ、無結果ナリ
 ナリト謂フヨ 露國ハ、露露協約國
 ナリト云ルヨ 航路ノ立派ナルト云
 又極東ニ於テ 露國ノ如キ 露國ノ如キ
 展テ防止スル下 結スルナリ 露路高
 ノハ國同希モ 旅行ニ在リテ
 在填國日本大使館
 政ニテ 露路ノ經由ニ 填國ノ境内
 通過スルノ途々 露國ノ境内
 措置ハ、何等ノ奏効モナク 徒ラ
 填國ニ不快ノ感ヲ与ヘ 露國ニ
 露英接近ノ目的ハ、露國ノ方ヨリ
 以テ 露國ノ勢力カク 阻害シ 近東諸
 國ノ力ヲ合セテ 填國ト抗争セ
 レ 且ツ 極東ニ於テハ、日清露三國
 ノ利益ヲ 調和セトスルニ在リ 然
 ルニ 露國ノ合衆ノ凡況ニテ 露
 實ナリトモ 露國ノ希望ハ、露國ノ
 事ニ在リ

近東に於ては侵略的政策に専らシテ餘
り多ク極東の問題に等閑に附シテ
シテ兩國の今ニテ始メテ其政策ノ誤
レハシキヲ示シテ

在填國日本大使館

REEL No. 1-0866

0248

伊藤(子)路長(物)常務

外

明治四十三年一月七日接受 主官 政務局

第一三七號

秘受第

105

號

韓國大韓協會員ノ來阪

韓國大韓協會顧問大垣丈夫ハ東上ノ途次昨二十六日
 午後十一時三十分梅田駅着ノ汽車ニテ廣島ヨリ來阪
 シ當市北區曾根崎中二丁目旅人宿榊本周平方ニ投
 宿セシカ今回歸朝ノ目的ハ本期議會ニ於テ對韓問
 題ノ提議セラル、ノトアルヲ豫想シ議會開會前一應
 政友會並ニ進歩黨ノ幹部員ニ面會シテ韓國ノ現
 狀ヲ縷述シ又政府當局者ニ對シテ對韓政策ニ關ス
 ル同協會ノ希望ヲ訴ヘ議會開會中ハ東京ニ滞在
 シ諸般ノ視察ヲ為スニ在リト云フ
 本人ハ本日午後七時三十分梅田駅發ノ汽車ニテ出發
 シ着京ノ上ハ芝區愛宕町二丁目拾四番地月見館ニ
 投宿スヘキ筈ナリ
 右及報告候也

明治四十二年十二月廿七日 大阪府知事

内務大臣宛

内務省

第3 頁

寫

明治四十三年一月七日接受 警務政務局

第一三八報

秘受簿 570066?

第一課

韓國大韓協會員ノ出發

既報韓國大韓協會顧問大垣丈夫ハ昨日午後七時ニ
十三分梅田駅發ノ汽車ニテ東上セリ(京都府ノ電話通報ス)
同人ノ妾鹿山ミツナル者目下當市北區牛丸町ニ居住
セルヲ以テ來阪後同所ニ出入セシ外別ニ異状ノ行動ヲ
認メズ

右及報告候也

明治四十三年十二月廿八日 大阪府知事

内務大臣宛

内務省

第 門

外 務 省

		在 歐 各 公 館									
在	在	在	在	在	在	在	在	在	在	在	在
館機密送第	館機密送第	館機密送第	館機密送第	館機密送第	館機密送第	館機密送第	館機密送第	館機密送第	館機密送第	館機密送第	館機密送第
號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號
在	在	在	在	在	在	在	在	在	在	在	在
館機密送第	館機密送第	館機密送第	館機密送第	館機密送第	館機密送第	館機密送第	館機密送第	館機密送第	館機密送第	館機密送第	館機密送第
號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號

第 8 門

機

文書課長

生

明治四十三年一月七日接受

明治四十二年十二月廿八日
同日發遣

別紙

主任

甲下

政務局長

了

一月七日發遣

在外

村大臣

各大使及代理大使

在籍外國人、^初連況ニ関スル件

外務省

在籍外國人、^初連況ニ関スル件

在京城曾統監ヨリ別紙寫ノ通報告有

之候ニ付爲御參考右茲ニ及御送付候間御

査閱相成度此段申進候也(天公使、統監及都督宛ニ限
リ也ノ代リニ敬具ヲ用ツ)

敬具

別紙機密受第 3835 號並ニ附屬書寫添付ノ事

明治三十三年一月八日 接受 警務局

乙秘第一八號

一月七日

李人植ノ行動

第一號
118 號

五日午前九時四十分宿所ヲ出テ胃腸病院ニ松本君
 平ヲ訪ヒ十一時返宿午後四時ヨリ麹町区丸園町二丁目
 亦三番地荒浪平次郎(荒浪ハ金山日語一ヲ訪ヒ七時十分
 學校創立者)邊出大韓興學會ニ立寄り同四十分返宿先是中村
 文學士來訪李人不在ノ為メ直ニ退出八時前阿部
 佐太郎來訪十一時退出
 六日午前十一時ヨリ阿部佐太郎方ニ赴キ十二時四十分退出

解了門

既途大韓興學會ニ立寄り尹某ヲ伴ヒ麹町区三番町亦
 三番地ノ空家借愛ノ約束ヲ為シ市ヶ谷門外ニテ尹ト
 分レ小石川区指ヶ谷町九十二番地田暮指南伊沢巖
 吉方ニ至リ十時返宿

以上

朝鮮日報 一月九日 東京 政務局

號外 一月九日

韓國留學生ノ行動

再昨七日午前十時頃 韓國留學生中評議
員ノ重ナルモノ十七八名ハ大韓興學會本部
ニ會合シ合邦問題ニ關シ一進會ノ行動及
ビ李總理ノ退説等ニ付種々協議ヲナシ
タルモ其内容ハ秘密ニ附シテ洩サズ現時學
生トシテハ運動ハ不可ナリ然レテ運動ノ意見見ハ
之レヲ公コシ能ハガルモ兎ニ角在京城支部ト

第3門

歩調ヲ共ニセント計畫シ其通知ハ文書ニテ
ハ意ヲ尽シ難キ場合多シ且ツ又秘密ノ洩
ルハ慮アルシ故ニ幸ニ不日飯田ノ修等ハ
草履榮久所永見寺内ノ僧侶韓國人會
社ニ内託シテ極メテ秘密ニ大韓興學會
本部ノ意郷ルヲ通知セント同日午後評議
員金漢驩外武名ガッ剛記永見寺内金
ヲ往訪シ都合四名ニテ漢草公園附近ノ牛
肉店ニ入り評議員ノ意々向リ在京城支部ニ

伊藤多雄 雜記 5/10

秘受錄 128 第一課 等

野村

内報方ヲ金ニ依頼シタルト同人ハ快諾シ先
由ナリ

右ハ近來學生トシテハ野黨ノ佳意出敵ナリ隨
テ拘禁ビタルノ虞アリトテ這回ハ僱俵依
頼シタルモノ、如シ

以上

明治四十三年一月十日接獲 警務局

乙秘第ニ九號

一月九日

李人植ノ行動

第一課 129

伊藤 三郎

八日午前中在宿午後一時外出神保町ヨリ電車ニ乗リ
麹町辰巳六本町五十番地韓國留學生監督所
ノ大韓興學會創立一週年紀念會ハ臨ニ同
五時三十分退出シ市ヶ谷見附ヨリ電車ニ乗リ同
五時五十分歸宿セリ同六時三十分四谷尾永住
町吉田龍郎未訪シ固基ヲ為シ同十時十
五分退出シ本々ハ同時五分就寝ス (以上)

第3門

伊藤 三郎

明治四十三年一月十日接獲

乙秘第ニ三號

一月八日

李人植ノ行動

第一課 131

伊藤 三郎

七日午前中時十分宿所ヨリ出テ親戚阿部佐太郎ヲ訪ヒ
途本郷四丁目十七番地團裏番南以本方ニ立寄り團裏
ヲ試シ六時既宿先是基登ル者未訪セシ本人不任ノ
爲メ直ニ退出六時五十分倫某未訪九時四十分退出

以上

第3門

第3門

奉命赴韓使節事務

附屬書類添附

明治四十一年一月十日

書政務局

受領

130

乙秘第26號

一月九日

第一課

大垣

大垣丈夫ノ行動

滯京中ノ大垣丈夫ハ別紙寫ノ如キ合邦友對ノ理
由書ヲ起首シタル趣ニテ近々印刷ニ附シ各
方面ニ頒ツ計畫申ナリ

追テ同人ハ韓國謝罪侯ノ一行ニ會見シ一昨首
同行シ故伊藤公ノ墓前ニ參拜セリ

以上

(寫)

合邦及對ノ理由

大垣大夫談

日韓合邦ハ目下ノ情勢ニ於テ寧ニ我國ノ一大
利ナリト斷言スルヲ慥ラス其理由ハ概ネ左ノ五項ヲ以
テ之ヲ悉クスヲ得ン

一、新政ニ對スル韓民一種ノ危惧心ハ未ク全ク除去サレ
タリト云フヲ得ス此際若シ強テ合邦セハ一般ノ民心
之レガ為テ自暴自棄ニ陥リ即チ一面ニハ産業ノ

衰微ヲ來クスト共ニ他ノ一面ニ於テ排日思想
再燃ノ因ト爲リ少クモ今後十年乃至十五年間ハ我
國人ノ地方發展ヲ阻止スルニ至ルベシ

ニ、左ナキテ保護的經費及建設費ハ年々回進シテ
既ニ可ナリノ多額ニ上リ從テ其レ支テノ新負擔ヲ我
國民ノ頭上ニ加ヘツマアル場合ナルニ今若シ合邦セハ更
ニ一段ノ施設費ヲ要シ統治費モ亦多額ニ上リ執
一層ノ苦痛ヲ我國民ニ與ヘラルヘカナル道理ナリ故
ニ合邦論其モハ仔細ニ此點ノ利害ヲモ計較シテ

こニテラ計算スルノ要アリ猥リニ小功在ニ心ニ驅ラレテ各
義上ノ合邦ヲ急クハ徒ラニ魚用ヲ貴ノヲ忙ヲ招ク過
キナルノミ

三 合邦主唱者タル一進會ガ實數四千ニ滿サル會員
ヲ以テ漫リニ百万ト称スルハ虚聲モ亦大甚ト進會
員果シテ百万ナリトセンカ老幼及婦女子ヲ除ク外
殆ニト韓民ノ総テヲ舉テ同會員タラカレ可ラザル
筈ナリ然ルニ事ノ實際ニ於テ一部少數ノ同會員ナ
レバ左マテ政治的及社會的勢力ヲ有スル者ニアラズ

及テ同會ハ豫テ韓民ヲ數ノ排斥ヲ受ケ居ルハ事
實ナリ故ニ民心ノ安堵ヲ圖ラントセバ窮餘ノ一策ニ出
テタル同會ハ合邦論ニ對シ特ニ深重ノ顧念ヲ払フ
要アリ實情洵トニ然リ區々タル一進會ヲ非難スル
ニアラザルナリ

四 單ニ聲ノミニテモ日韓合邦ノ四字ガ實際異様ノ
嚮キヲ爲シテ清廷及清國人ニ少カラサル不安ヲ興フ
ルノ恐レアリ而シテ其結果吾國人ニシテ手ヲ支那ノ利
源ニ離レシムルノ憂態ナニシテ係スヘカシク

五 韓國各道到ル處トシテ教民ノ集團ヲ見サルハ莫シ
而カモ教民ノ行動ニ由テ我外交上ノ不利ヲ招キレ前
例ニ及ビカラス今固卒然トシテ起レル合邦論ノ如キ亦
蓋シ教民ノ口述ニ上リ甲乙相傳ヘテ意外ニモ國際上
ノ一亀裂ヲ不意ノ流説中ニ現出セズトモ限ラレズ
以上五項中ノ第二以下ハ賢明ナル政治家及外交家ノ判
断ニ一任スバレト雖第一項ニ至リテハ何人ノ反對アルモ我
確信ヲ翻スヘキ理由ヲ有セズ何トナレバ予ハ五年間韓
國ニ在リテ自強會及大韓協會顧問ノ任ニ當リ傍ラ

韓字新聞ニ從事シ深ク國情調査ヲ爲シタル結果ト
シテ動カスヘカラル証據ト確信トヲ有スルニ依ル
惟フコ今ヤ保護政治ハ著々進行シ外交軍軍司法ノ
三權ハ全ク之トシテ我手ニ收メ其他ノ諸機關モ大抵邦人
官吏ノ手ニ依テ取扱ハレ統監ハ親シク最上機關ヲ指
揮監督スルト共ニ從來継子扱ヒラ受ケ居タリシ排日
派ニスラ一道ノ慰安ヲ共ニ大ニ信賴ノ念ヲ起サレナタリ
斯クシテ國情益々良好ニ赴キ不平者日々ニ減少シ
心アル者爭フテ統監旗ノ下ニ自奮自勵セシコトヲ期ス

ルニアラスヤ且各地ニ産業組合ニ業會社殖林事業
等ノ著シク勃興シタルハ何レモ韓民ノ生活状態ノ改
進スヘキ前途ノ光明ニ屬シトレテ新政ノ徳ニ基カガルハ
ナレ若シ現状ヲ以テ進行セバ將來ノ大成期レテ待ツ
可シ

然ルニ我國人ニシテ何ノ必要アリテカ有利ノ保護政策ヲ
棄テ強ク不利ノ合邦實行ヲ提唱セントスルヤ解スヘカラハ
ナリ若シ兎行ノ續出ニ由リ一概ニ國情陰惡ノ結果ナリト
速断スルモアラバ大ナル謬想ト云ハカラス彼ノ「スチア

ンス」氏ト云ヒ伊藤公爵ト云ヒ并ニ李完用氏ト云ヒ
其遭難ハ孰レモ韓人ノ兎行ニ相違ナシト雖兎行者ハ
悉ク海外ニ住居スル乱民ニシテ韓國ノ現状ト懸隔セ
ル思想ヲ有スルモノタルヲ知ラカラス「浦塩斯徳」韓
人同義會ナル者アリ（會員三十四名）曾テ「スチアンス」
氏ヲ暗殺シ米國ノ監獄ヲ脱走シタル田明雲、海牙萬
國平和會議へ出掛ケタル連中及五年前ニ軍部大臣李
根澤氏ヲ刺シテ逃亡シ王世東ト變名セル者等悉ク彼
徒ニ屬ス伊藤公爵ヲ狙撃シタル安應七（一名安重根）

ハ實ニ其牛耳ヲ執リ李堯用氏ヲ刺シタル李在明モ亦
其一人ニシテ孰レモ常ニ海外ニ住居ス思フニ海外ノ亂民
ヲ取締ルハ自ラ勿途ノ方法ニ屬ス然ルニ彼等ノ兇行ヲ
以テ直チニ韓國ノ現状ヲ陰惡ナリト推想シ此動機ヲ
捉ヘテ周章シテ合邦論ヲ提唱シタルニアラサルカ然ル所
以ノモノ畢竟韓國ニ關スル知識ノ乏シキニ依ルハレト
虛モ國家ノ利害得失ニ對スル比較研究ヲ輕視シタルノ
跡アルヲ掩フコト能ハズ是ヲ以テ予ハ短簡ニ其ヲ對理
由ヲ説明スルノミ

合邦反對の理由

日韓合邦は目下の狀勢に於て寧ろ我國の一大不利ありと斷言するを憚らず其理由は概ね左の五項を以て之を悉くすを得ん

- (一) 新政に對する韓民一種の危懼心は未だ全く除去されたりと云ふを得此際若し強ひて合邦を決行せば一般の民心、之れが爲め自暴自棄に陥り即ち一面では産業の衰微を來たすと共に更に他の一面に於て排日思想再燃の因と爲り少くも今後十年乃至十五年間は我國人の地方發展を沮止するに至るべし
- (二) 左なきに保護的經費及び建設費は年々累進して既に可成りの多額に上り從つて其れだけの新負擔を我國民の頭上に加へつ、ある場合あるに今若し合邦せば更に一般の施設費を要し統治費も亦多額に上り勢ひ一層の苦痛を我國民に與へざるへからざる道理かり故に合邦論其ものは仔細に此点の利害をも計較し徐に之を打棄するの要あり猥りに小功名心に驅られて名義上の合邦を急ぐは徒らに無用多費の多忙を招くに過ぎざるのみ
- (三) 合邦主唱者たる一進會が實數四千に満たざる會員を以て漫りに百萬と稱するは虚聲も亦太甚し一進會員果して百萬ありとせんか老幼及び婦女子を除くの外、殆んど韓民の總てを擧げて同會員たらざるべからざる筈あり然るに事實に於て一部少數の同會員かれは左まで政治的及び社會的勢力を有するものにあらず反つて同會は豫て韓民多數の排斥を受け居るは事實あり故に民心の安堵を圖らんとせば窮餘の一策に出でたる同會の合邦論に對し特に深重の顧念を拂ふの要あり實狀洵とに然り區々たる一進會を非難するにあらざるあり
- (四) 單に聲のみにて日韓合邦の四字が實際異様の響きを爲して清廷及び清國人に少からざる不安を與ふるの恐れあり而して其結果、我國人をして手を支那の利源に離れしむるの變態をかきを保すべからざる
- (五) 韓國各道到る處として教民の集團を見ざるは莫し而かも教民の行動に由つて我外交上の不利を招きし前例に乏しからず今回卒然として起れる合邦論の如き亦蓋し教民の口實に上り甲乙相傳へて意外にも國際上の一醜裂を不吉の流説中に現出せずとも限られず

以上五項中の第二以下は賢明ある政治家及び外交家の判斷に一任すべしと雖ども第一項に至りては何人の反對あるも我權を棄つべき理由を有すべし何れは五年間韓國に在りて自強會及び大韓協會顧問の任に當り得惟ひに今や保護政治は著々進行し外交、軍事、司法の三權は全然之れを我手に收め其他の諸機關も大抵邦人官吏の手に依り取扱はれ統監は親しく最上機關を指揮監督すると共に從來繼子扱ひを受け居たりし排日派にすら一道の慰安を與へ大に信頼の念を起さしめたり斯くして國益々良好に赴き不平者日々に減少し心あるもの争ふて統監旗の下に自奮自勵せんことを期するにあらずや且各地に産業組合、工業會社、殖林事業等の著しく勃興したるは何れも韓民の生活狀態を改造すへき前途の光明に屬し一として新政の徳に基かざる莫し若し現状を以て進行せば將來の大成期して待つべし

然るに我國人にして何の必要ありて有利の保護政策を棄て強ひて不利の合邦實行を提唱せんことをや解すべからざるあり若し兇行の續出に由り一概に國情險惡の結果ありと速斷するものあらは是れ大なる謬想と云はざるべからず彼の「スタブンス」氏と云ひ伊藤公爵と云ひ並に李完用氏と云ひ其遭難は孰れも韓人の兇行に相違なしと雖も兇行者は悉く治外に住居する乱民にして韓國の現状と懸隔せる思想を有する者たるを知らざるべからず浦墟斯徳に韓人同義會なる者あり(會員二十四五名)曾て「スタブンス」氏を暗殺し米國監獄を脱走したる田明雲、海牙萬國平和會議へ出掛けたる連中、及び五年前に軍部大臣李根澤氏を刺して逃亡し王世東と變名する者等悉く彼徒に屬す伊藤公爵を狙撃せる安應七(二名)安重根は實に其牛耳を執り李完用氏を刺したる李在明も亦其一人にして孰れも常に治外に住居を思ふに治外の乱民を取締るは自ら別途の方法に屬を然るに彼等の兇行を以て直ちに韓國の現状を險惡ありと推想し此の動機を捉へて周章しく合邦論を提唱したるにあらざるか然る所以のもの畢竟韓國に關する知識の乏しきに依るべしと雖も國家の利害得失に對する比較研究を輕視したるの跡あるを掩ふて是能はず是を以て予は短簡より其反對理由を説明するのみ

大垣 丈夫

頭白 經 綸 功 未 成 ○ 帶 將 感 憤 出 韓 京 ○
氷 心 一 片 請 看 取 ○ 四 十 餘 年 只 一 誠 ○

明治四十二年十月十日 陸軍省 陸軍部

神宮秘傳(之七)

格宿市山子河二百廿四番地

陸軍省 132

第一

費博

右ノ公直陸軍少将ニ昇任セシメテ以テ總親ノ旨有
大島少将ノ任人ノ者大祝宴ヲ開催セシメテ是役副
長ヲ再交左人解ニ遣ハシ都后口前等ヲ同座セシメ
左人ニ病中ナリトテ辞退セシメテ有之様而シテ
左人ニ昨年未ヨリ足部病ニ即テ突ニ罹リテ
観兵式ニ参加セザルト云フ旨人解ニテ
以來病佛有玉新中ノ記者ノ出テる者頻毎事ニ
テ左人ニ病室ニ在ラ彼等ト會見シテ
如月甲ノ病室ヲ使ハシメテ以テ其度シ左人
書ニテ前記新中ノ記者ト會見シ長時會ノ談話

第3門

右ノ日解左ノ新聞問題ニ関スル何事モ其談アリシ
ノ如シトテ知ス
右ノ及部告也
明治四十二年一月

神宮秘傳(之七)

外務省 伯耆村 青野 肝殿

中務省 外務省 伯耆村 青野 肝殿

伊藤公三郎及藤田多助

第一課

秘受第 81 67 號

明治四十三年一月十一日接受
秘受第 33 號 一月十日

本子人植、行動

一九日午前九時十分全載坤素訪談話、全九時四十分

退去、全時倫其未、談話、全十一時退去、本

モ全時外出、表、非、所ヨリ、電車ニ乗リ、市ヶ谷門内

ニテ降車、ニ、蘇、所、區、中、六、番、町、韓、國、留、学、生、監、督、所

ニ、至、リ、區、中、二、時、辭、去、ニ、市、ヶ、谷、門、外、ヨリ、電、車、ニ、乗、リ

小石川區指ヶ石町九十二番地團長教授伊沢源吉

方ニ至リ、表、ヲ、用、ニ、市、ヶ、谷、五、時、三、十分、退、出、指、ヶ、石、町、ヨリ

第 3 門

電車ニ乗リ、全六時、飯、館、セ、リ、全七時、本、子、某、未、訪

談話、全八時、四、十分、退、出、本、子、二、程、ヲ、執、行、セ、リ

以 上

明治三十三年二月十二日接獲

政務

第1課

乙秘第 四三號

一月十日

大垣丈夫ニ関スル件

韓國自強會及大韓協會顧問大垣丈夫が日韓合邦及對ノ理由ナルモノヲ起シ橋セルコトハ既報(一昨九日乙秘第ニ六號)ノ通りナルが今般一万部ヲ印刷シ貴衆兩院議員及新聞社並本邦在留韓國人等ニ配布シ尚ホ近ク神田錦輝館ニ於テ合邦及對大演說會ヲ開カント昨今計畫中ナリ洩シ聞ク所ニ依シハ本人ハ李完用ヨリ合邦

第8門

及對運動費トシテ金壹万圓ヲ受取リ其内五千圓ヲ大韓協會ノ費用ニ充テ三千五百圓ヲ韓國京城ニ在ル家族ニ預ケ残一千五百圓ヲ携帶出京シタリト云フ

遺テ今般印刷セル合邦及對理由ハ既報ノ通りシテ紙末ニ尤ノ文字ヲ附記セリ

大垣丈夫

頭白經綸功未成 帶將感憤出韓京
氷心一片請看取 四十餘年只一誠

第3門

明治四十三年一月十二日接受

主普政務局

秘受第

165

第一課

號

乙秘第 四九號 一月十二日

韓國政况視察員ノ件

朝鮮問題同志會韓國政况視察員大谷誠夫、五百木良三ノ両名ハ本日午後三時四十分新橋發汽車、予渡韓ノ途ニ就ケリ

以上

三原

天

明治四十三年一月十一日 警務局 乙秘第四四號

第一課 一月十一日

李人植ノ行動

十日午前十時外出錦所三ノ一。飯谷理髮店に至り理髮と同時に四十分歸館。同十一時十分下谷屋上根岸所三十九番地岡村熊人來り談話シ午後一時同人ト共ニ外出三崎所東京座ニ入り觀劇シ同六時半退出岡村ト談シ電車ニテ本邸戻。同六時嘉所六十三番地阿部佐太郎方ヲ往訪シ同九時十分退出小石川區指ヶ谷所ニ至リ電車ニ乘リ同十

第3門

時飯館同時四十分就寢セリ

本人ハ渡日以来專ラ孔子教會ノ設立ニ運動シ韓國人ノ賛同スル者指録名ヲ得タルハ同支部ヲ設立スル爲メ勸所雇出テ三番所ニ家賃月拾參圓數金七拾圓ノ家屋ヲ借受タルコト、シテ亦今六日間モ滞在シ其理事等ヲ選定シ着々進行セント企画シ居ルモノ、如ク右ニ関シテハ高峯師範學校及大學ノ講師中村久四郎モ賛同シ勸所雇元園所荒浪平次郎(久

天

子

子

子

子

シク在韓 韓國國民ノ教育ニ從事シ居リシモノニ然
ルセシ為ノ荒浪モ亦奔走尽力シ置ル事
ナリト云フ

以上

第3門

明治四十三年一月十三日接受 善管政務局

乙秘第五三號 一月十三日

李人植ノ行動

二十一日午前八時三十分全載押未訪談話し全九時退去
又李一終日在宿他ニ未訪者モナリ又唇面等モ到
来ニ至ラズ午後九時三十分就寝ス

第一課

秘受第 183 號

第一課

兵甲

又

明治四十三年一月十四日接受 善管政務局

乙秘第六二號 一月十三日

李人植ノ行動

二十一日午前十時外出電車ニ乗リ舞町区内幸町一丁目
三番地胃腸病院内松本君ニ平リ訪詢し全十一時
退出電車ニ乗リ全十一時三十分飯館午後二時再
外出神田區猿樂町三番地は、十八号團甚五樂
所南部健太郎方ニ至リ甚五團ニ午後五時退
出全五時三十分飯館其後外出モ又未訪者
モナリ全九時五十分就寝ス

以上

第3門

秘受第

196

號

第一課

第一課

兵甲

伊藤達雄收産先物書形

第門

明治四十三年二月十五日接獲

秘第 七三 號

一月十四日

秘受第 205 號

第一課

外人奉勅

李人植ノ行動

一月三日終日外出、午後四時五分芝区三層石町一丁目
廿四番地大垣文支来訪談話、末全八時三十分退
出、本子、全九時四十分宿帳に就たり

以上

三原

明治四十三年一月十七日接獲

警務局 附

秘受第 216

第一課

號

乙 秘第八三號

一月十五日

李人植ノ行動

十四日午前十時五十分金載坤(二進合員)來訪午後
十二時卅分退出先是午前十一時卅分本林芳五郎
來訪因暮雜談九時四時退出李八時就寢

附記

当日午後四時卅分京城北郡齊洞孟峴契十六號

二戸李子變夏ヨリ封書來ル

第 門

REEL No. 1-0866

0272

明治四十三年二月十七日接獲 警務局

乙秘第九一號

一月十六日

秘受第 2 / 8 號

第一課

李人植ノ行動

(子音)

午前中外出モズ午後四時十七分外出神田區千代田町二十八番地居住神田署巡查松永松太郎方ニ階ヲ借問シ居レル鈴木兼松ヲ訪問シ六時十分退出飯館ス別ニ未訪者モナク午後九時三十分就寝セリ

附記

第 門

鈴木兼松ノ妻ノ姉ハ本郷區淺草加町六十二番地阿部佐太郎ノ妻ナリト云フ阿部ハ李ト懇意ノ間柄ナリ其關係ヨリ兼

松ヲモ知ルニ至レルモノナルカ如シ

伊予縣立総合資料館蔵

明治四十三年一月十八日接受

警務局

第一課 247 號

乙秘第九八號 一月十七日

李人植ノ行動

一十六日午前中、外出。午後一時四十分外出神保町。電車に乗る。石川返船場町にて下車。同所九番番地伊沢嚴吉方へ入り、暮の國へ午後五時十五分退去。電車に乗る。午後五時五十分、飯館へ十時寝。就。以上

第3門

明治四十三年一月十九日接受

警務局

乙秘第一〇五號 一月十六日

秘受第 266 第一課 號

朝鮮問題同志会員下ノ關ニ向テ

朝鮮問題同志会員望月龍太郎、宋東暎、金見ノ為メ、昨十七日午後三時四十分新橋乗下。關ニ向、タルガ来ルル。二日頃、記者ノ同會派遣韓、同視察員大谷誠夫、五百木良三、二者ノ同地。於テ得合セ、然ル後渡韓ノ豫定アリト云フ。

以上

第3門

昭和十三年一月十九日接受 警務局

乙秘第一〇八號 一月十八日

李人植ノ行動

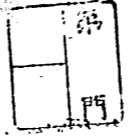
十七日午前九時十五分金載坤來訪中時亦分退出
午後一時宿所ヲ出テ胃腸病院：松本君平ヲ訪ヒ
四時去テ申六番町大韓興學會：至リ八時五分
既宿

以上

秘受第 257 號

第一課

原



昭和十三年一月二十日接受 警務局

乙秘第一二二號 一月十九日

李人植ノ行動

十八日午前十二時亦分宿所ヲ出テ韓國留學生
監督所：至リ既途麹町区出テ三番町亦五番地
ノ借家：立寄リ午後二時亦分既宿同四十分金
載坤ヨリ端書到來

以上

秘受第 267 號

第一課

原



明治四十三年一月二十一日接獲 警務局 警務課

乙秘第 一九九 一月二十日

秘受第 279

韓人渡来件

備付

既報(密年十一月十日) 歸韓中ノ韓國留學生合邦問題ニ関スル注意人物、金益三及ビ金尚次ノ兩名ハ本日午後二時十分新橋着汽車ニテ再入京、神奈川縣ヨリ尾行引継ヲ受ク兩名ハ直ニ神田區小川町三十四番地旅人宿矢澤直吉方ニ至リ投宿セリ目下厳密行動視察中ナリ

以上

第8門

伊達修政所日記

明治三十三年一月二十一日 伊達修政所

乙 秘第 一三。 號 一月二十日

秘受第 280 號

第一課

李人植ノ行動

十九日午前八時十分外出御茶ノ水橋ヨリ甲武線電車
ニテ大久保停車場ニ到リ更シヨリ脱車ニテ東大久保
十四番地行越興三郎方ニ到リ同十一時全家ヲ退
出シ大久保停車場ヨリ電車ニ乗リ午後一時飯館
午後二時三十分再ビ外出神田區新石町五番地兵衛
士板倉中ヲ訪問シ道ニ退出更シヨリ神田今川橋
ニ出テ電車ニテ京橋ニ到リ新着町一番地代議士

第8門

日向輝武ヲ訪問シ道ニ退出更シヨリ京橋ヨリ
萬朝報社ニ到リ程ナリ退出シ電車ニテ午後四
時十五分飯館セリ

以上

伊藤 義典 氏 宛

昭和十三年二月二十二日 陸軍省 参謀部

乙 秘 第 一 四 七 號 一月廿一日

第一課 秘受第 293

李人植ノ行動

十九日午前九時亦分金載坤來訪十時亦分既去
 同四十分宿所ヲ出テ田目腸病院ニ松本君平ヲ訪ヒ
 午後十二時亦分既宿午後一時亦分再々外出伊沢巖
 吉(田暮指南)方ニ去寄リ先レヨリ阿部佐太郎方ニ
 到リ同人ヲ伴ヒ三時既宿六時亦分鈴木兼松喜來訪
 (親戚)七時亦分錦輝館ニ赴キ活動寫真ヲ觀覽九
 時亦分二人ニ分シ既宿 (以上)

第 3 門

伊藤三郎 退任 伊藤三郎

明治四十三年一月二十四日接受 善政務局

乙秘第一六五號 一月二十日

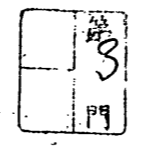
第一課 原 興 秘受第 297 號

本人植ノ行動

二十日

午前九時五十分外出神田區神保町ヨリ電車ヲ市ヶ谷見附
ニ到リ夫レヨリ徒歩ヲ麹町區中六番町五十二番地韓國番
学生監督所ニ到リ今午時三十分退出シ市ヶ谷見附ヨリ電
車ニ乗り込キ午十時飯宿ス

午後一時十五分再外出錦町ヨリ電車ニ乗り麹町區内幸
町ニ下車シ同町一丁目三番地胃腸病院ニ到リ今午時三十分



退出シ電車ヲ午後三時十五分飯宿セリ

以上